

2019年1月6日

福音書からのメッセージ

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。

(マタイによる福音書 2章 9節)

クリスマス、おめでとうございます。1月に入ってこう言われると、何か違和感があるかもしれません。クリスマスツリーはとっくの昔に片付けられ、すでにお正月飾りになっているのにと思われることでしょう。今日、1月6日は顕現日です。多くのキリスト教国ではこの日までをクリスマスシーズンとして、お祝いしています。ではこの顕現日とは、どういった日なのでしょう。

顕現とは、神さまが人間の前に現れることをいいます。そして新約聖書の中では特に、神さまがイエス様を通してご自分を現された出来事を指します。今日の福音書では、東方の占星術の学者(博士の方がなじみがあるかもしれません)が星を頼りにイエス様に贈り物を届ける物語が読まれました。イエス様の誕生が、聖書の中では異邦人と呼ばれる外国の人たちに対して伝えられたという出来事です。

クリスマスの出来事は、まず野原にいる羊飼いたちに伝えられました。そして今、東方の博士たちに知らされました。このことを通して、神さまの思いがあらわされているのです。

それは、選ばれたわずかな人だけが救いにあずかれるのではないということです。羊飼いは主の天使から、真っ先にイエス様の誕生を知らされました。羊飼いとえば楽しそうなイメージがあるかもしれませんが。しかし現実はそうではありませんでした。彼らは貧しく、虐げられていました。その理由の一つは、神さまから与えられた律法を守ることができないからです。たと



えば安息日。週の一日は神さまにおささげして、すべての労働から離れなさいと命じられていました。しかし

羊という動物を相手にしている彼ら羊飼いに、休める日などありません。火をおこすとか、何歩以上歩くとか、無理な話です。また汚(けが)れるとされている血や死骸にも、日常的に触れなければなりません。だから彼らは汚れている人間だと、後ろ指を指され、誰も相手にしてくれませんでした。しかし神さまは、そんな彼らに真っ先に救い主の誕生を知らされました。

そして東方の博士たち。彼らは遠くからユダヤの国にやってきました。ユダヤの人たちは、神さまの救いにあずかるのは自分たちユダヤ人だけで、そのほかの人たち、いわゆる異邦人と呼ばれる人たちには、救いは来ないと思っていました。ところが神さまは、遠く離れた異邦人に、イエス様の誕生を知らされたのです。

世間の中で弱くされている人たち。神さまの救いなど来ないと言われていた人たち。そこに、救いがやってきた。これがクリスマス物語です。今、神さまなんて関係ない、必要ない、自分は見捨てられた、そのように思っている全ての人の元に、「あなたのために救い主は生まれた」という知らせが届けられているのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>